

成果の説明書

(氏名) 木下まゆみ	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>◆研究</p> <p>・集団討論に関して</p> <p>科学研究費助成金基盤研究(c)に採択された研究課題<「協同知」の形成における視線の役割—集団討論での聞き手の同期性に注目して>の2年目。新型コロナ肺炎感染予防のために集団討論が実施不可となったため、過去の動画を再分析した。発言権の移動の質をネットワーク分析で評価する方法を考案、その成果を学会誌へ投稿する予定である。また、アルバイトによる視線配布のコード化を進めた。表情計測ソフト OpenFaceにより視線配布を2次元プロットし、これを説明変数、コーダーの評価を目的変数として機械学習を行い、視線配布のコード化の自動化を試みている。</p> <p>◆学会参加(全てオンライン)</p> <p>日本心理学会、日本質的心理学会、電子情報通信学会 HCS 部会</p> <p>◆セミナーへの参加(全てオンライン)</p> <p>2020年9月10日 「Pythonを使って学ぶ機械学習」</p> <p>2020年11月14~15日 日本行動計量学会主催秋のセミナー 「深層学習入門：機械学習の基礎から深層確率生成モデルまで」</p> <p>2020年12月07日 「回帰分析の基礎と実際」 等</p> <p>◆授業以外の教育への取り組み</p> <p>教職実践演習の受講者を対象にワークショップを開催。インプロ・ジャパンより講師を招聘、即興劇を中心としたオンライン・ワークを実施した。</p> <p>◆社会活動</p> <p>日本パーソナリティ心理学会理事</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>高崎経済大学教員免許状更新講習にて、「教育の最新事情」を担当</p>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>(1) 集団討論に関して</p> <p>科研費研究の3年目であるが、新たに集団討論が実施できるかまだ不透明である。その場合に備え、既存データの時系列分析に着手する。動画から討論参加者の身体動作を計測し、その同期性の有無、および同期性の質の判別を検討する。また、議論の質的評価の方法を模索し、特に議論を活性化する発言を中心とした発言権の移動を明らかにする。最終的にこれら2つを組み合わせて、聞き手の身体動作の同期性と発言の質の関連を示すことを目指す。</p> <p>(2) 思考スタイルについて</p> <p>前年度まで進めてきた文献収集を進め、システム1とシステム2の二重過程モデルに関</p>	

する現時点での議論を整理する。